

## ◆武力ではなく「平和憲法」で国際貢献！　これが日本の使命です◆

# ★六十三年前の浜松はこうだつた！

ー若いみなさんへ、六十三年前の六月一八日浜松大空襲があつた日ですー

◆太平洋戦争末期のこの日、浜松市に六万五千発の焼夷弾が降り、死者一七一七名、家屋の全半焼一万五千八百七四棟という壊滅的打撃を受けました。左はその時のある家族の写真と爆撃直後の焼け野原となつた浜松市の光景です。

●空襲前、防空壕に隠れた家族。  
おびえながらサツマイモを何かを食べています。この家族は助かつたのでしょうか？



●瓦礫と化した浜松市。遠くに旧松菱デパートがぽつんと見えます。



## ★そして戦争をしない約束・平和憲法が生まれた

◆みんな、この光景は、もう未来には起きない歴史の一コマなのでしょうか。そうありたい、そうではなければならないと願い、戦後日本国民は新しい憲法をつくり、第九条で戦争を完全に放棄し、武力を棄てたのです。

◆私たちは、若者のみなさんに特に訴えます。もし憲法が改悪されて再び戦争のできる国になつたら、真っ先に戦場に行くのは、若者のみなさん、あなたです。そんなことにならないよう、末永くこの平和憲法を守つて行きましょう！

一歩き続けて四一年一  
一一〇〇八年六月八日（日） 第四九六回憲法を守る平和行進

浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一～一五

★月例護憲平和行進

毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合

★6・18 浜松大空襲と平和憲法を心に刻む集会のご案内

六月一六日（月）午後六時半～八時半

（遠州教会（市内紺屋町三〇一～十五）

「戦争体験をこえて、いま平和を考える」  
浜松市憲法を守る会、静岡県西部地区平和遺族会

一一〇〇八年六月八日 街頭アッピール

ご通行中の皆さん、ドライバーの皆さん、こんにちは！。こちらは歩き続けて  
四一年、浜松市憲法を守る会の第四百九十六回護憲平和行進です。

皆さん、六十三年前の六月、ここ浜松でどんなことがあつたか、ごぞんじですか？

太平洋戦争末期の昭和二十年六月十八日、浜松市は、米軍の猛爆撃を受け、そ  
の日だけで千七百十七名の死者を出し、市街は廃墟と化しました。

お配りのビラをご覧下さい。空襲を避けて防空壕に非難した不安そうな家族と  
瓦礫と化した市街の写真です。この家族は助かつたのでしょうか？

本当に地獄絵のような悲惨な戦争でした。

みなさん、この光景は、もう未来には起きない歴史のコマなのでしょうか。  
そうありたい、そうでなければならないと願い、戦後日本国民は新しい憲法を  
つくり、第九条で戦争を完全に放棄し、武力も棄てたのです。

私たちとは、若者のみなさんに特に訴えます。もし憲法が改悪されて再び戦争の  
でくる国になつたら、真っ先に戦場に行くのは、若者のみなさん、あなたです。  
そして残された家族は、このような光景になるのです。そんなことにならないよう、末永くこの平和憲法を守つて行きましょう！

ご通行中の皆さん、ドライバーの皆さん、  
六月十一日（月曜日）、この浜松大空襲と平和憲法を心に刻む集会が、遠州教会  
であります。時刻は午後六時半からです。どうぞお出かけください。そして、  
平和の問題を一緒に話し合いませんか？

詳しくは今お配りのビラをご覧下さい。  
(もとに戻る)